

戸田山和久著「論文の教室 - レポートから卒論まで - 」

NHK BOOKS 日本放送出版協会 2002年11月30日刊を読む

とりあえずやるべきは辞書に投資することだ

1. (1)文章を書くときに辞書を引く。このことじたいはとてもよいことだ。ようするに、辞書を使いながら文章を書くということと、辞書の記述を自分の論文に書き写すこととはまったく別だということに気づいてもらえればよい。

(2)というわけで他人の文章を読むときだけでなく、自分で書くときも国語辞書をかならず手元に置こう。むしろ、何か文章を書くときには、まず辞書を取りだしてデスクの上に置いてからはじめる習慣をつけるとよい。そうしないと、ノリノリで書いていて、ふと「この言葉でよかったっけ」と思ったときに、辞書が遠くにあると「ま、いいか」ということになって、あとで恥をかくことになる。しかし、ヘタ夫くんは次のように反論するかもしれない。

2. —それって古いです。オレ、パソコンで書いてるから、漢字を間違えることはないですもん、Atok みたいな日本語変換システムがあるから、どういう字を書くんだっけって辞書を引かなくてもよくなったんすよ。

3. —あのなあ。たしかに昔は辞書のことを「字引き」って言ったように、「たいしんけんちく」ってどう書くんだっけ……、そうでした「耐震建築」でした、ってな具合に使うことが多かったかもしれない。この役割は日本語変換システムに頼れば、肩代わりしてもらえらるだろう。でも、辞書の用途はそれだけじゃない。たとえば、「動物をかいほうする」をキミは、「開放する」って書いているだろう。正しくは「解放する」だ。辞書を引けば「開放する」は「戸を開け放すこと、制限を解いて出入りを自由にすること」、「解放する」は「束縛を解いて自由にすること」だということがわかる。という具合に、同じ読みでも意味の違う言葉があるとき、どちらを使ったら適切かを調べるのに辞書はまだまだ捨てたモンじゃない。

P26 ~ 27

#### [コメント]

論文を読んだり、書いたりするときに辞書が有用であることを QandA の形でよく説明してある。最後の問答はジョーク。辞書は文字文化そのもの、原点であると私は考える。大切に使いこなしたい。

- 2010年9月20日林 明夫記 -